



Q&A

Q1: 下田拠点（大阪拠点）での共同研究が実施可能なのはいつ頃でしょうか？

A1: できる限り迅速に研究室を立ち上げて実施可能にしたいと思っています。ただ、いつ頃ということをご正確に現時点でお答えする事は難しいです。2022年4月以降できる限り早くラボを立ち上げて、夏から秋の間には支援活動が行えるようにしたいと考えています。

Q2: 本領域の公募班が実際に研究を開始する時期はいつ頃でしょうか？

A2: 非公式ですが、大体2022年6月くらいに公募班の内定が出ると見込まれます。そこから研究開始して頂けるのは夏くらいになるかと思えます。領域会議は秋を予定しています。

Q3: 神経科学の立場から応募する場合オミクスと融合させるのは必須なのでしょうか？

A3: オミクスと融合させる事は必須ではありません。本領域の目的は適応回路の解像度を個別の細胞レベルに高めて理解することです。オミクスでなくても1つ1つの細胞を何らかの方法でID化して、それらの個性に意味を持たせるような、適応回路研究の切れ味が良くなるようなご提案でしたら必ずしもオミクスでなくても良いかと考えております。とはいえ、本領域の主幹は神経科学とオミクスの融合です。

Q4: RNA解析だけでなくタンパク質解析(プロテオミクス)も対象になるのでしょうか？

A4: はい。RNAだけでなくエピゲノム、タンパク質、あるいは糖などマルチオミクスのような発想でも構いません。とにかく適応回路を一つひとつの細胞に個性をつけてより深い高い解像度で観たいというのが私達の目的です。多様な切り口の研究を歓迎しますのでプロテオミクスの研究も是非ご検討ください。



Q&A

Q5: トランスクリプトーム解析に関して公募研究の申請前に具体的な相談をする事は可能でしょうか？

A5: 公平性の観点から、領域として応募前に個別の具体的な相談を受けることは難しいです。

Q6: オミクスに関して全くの素人ですが勉強するために良い資料などありますか？

A6: いくつかの参考書籍が出ています。例として2冊子を紹介させていただきます。

・実験医学 2021年9月号 Vol.39 No.14 空間トランスクリプトーム

<https://www.yodosha.co.jp/jikkenigaku/book/9784758125475/2170.html>

・実験医学別冊 NGS アプリケーション RNA-Seq 実験ハンドブック

<https://www.yodosha.co.jp/yodobook/book/9784758101943/>

Q7: 神経科学の対象組織は脳に限定されますか？ 神経内分泌系などは範囲に入りますか？

A7: 大切なご提案でしたら、脳に限らず、脊髄、末梢神経、あるいは内分泌系も入るかもしれません。脳に限定する訳ではありません。神経科学の対象でしたら是非ご検討ください。